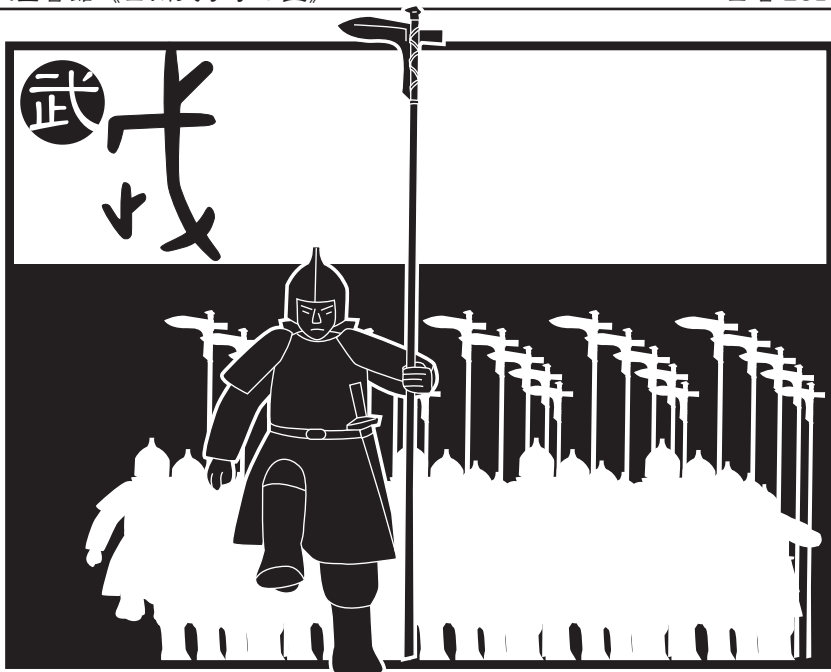


# 白川静のことば 《2》



金子都美絵・画

武という字を分析すると、戈（ほこ）と止（あし）とになる。

それで中国の春秋時代の歴史を記した『春秋左氏伝』という古書に、「戈（暴力）を止める（拒否する）を武と為す」という解釈があり、従来それが武の本義とされてきた。しかし、それは武力の行使を正当化するために、いわば弁護的に出されている解釈である。

春秋二百四十二年の間には多くの戦争があり、当業者はそれぞれ自己の正当性を主張して義戦と称した。

しかし、少し後に出た儒家の孟子は、「春秋に義戦無し」といい、すべての戦争の正当性を否定した。

いいわけを加えるような戦争に、本当の正当性があるはずはない。

それは現代の戦争においても同様である。

『桂東雑記 拾遺』平凡社（1977）

